

平成29年度

読書感想文・読書感想画コンクール

入賞作品集 第9集



元禄の初めより伝わる泰平踊(豫章館にて)

日南市立図書館

はじめに

日南市立図書館が毎年開催しております読書感想文感想画コンクールに応募された児童生徒のみなさん、作品の入賞、入選受賞おめでとうございます。本年度も多くの作品を出品していただきコンクールを盛り上げていただきましたことに心から感謝申し上げます。

読み終えた一冊の本がそれぞれの感性で文章や絵画という別の形で表現される文化は、あらたな興味・関心を想像するものです。読書をとおして豊かな心を育くむ時間を創り出すという意味からも、この事業に関わる市立図書館の役割は価値のあるものと思っております。

さて、みなさん方のどの作品もそれぞれの個性が感情や想像、そして夢を織りなし表現されていきました。本はみなさんにとって親しい友達であるかのような、そんな身近な存在なのだと思われたいと思います。

今、宮崎県は「日本一の読書県」を目指していますが、日南市も「県内一の読書市」を目指したいと考えています。

そこでみなさんには、とにかく本を手にとって読んでもらおうと、『旅する読書』に力を入れていきます。毎年一〇〇名以上の小学生が一〇〇冊達成で徐々に読書の輪が広がりとつありまします。また、中学生はビブリオバトルで本の面白さを広げています。各学校での予選も盛り上がりを感じるようになりました。来年の図書館まつりでは、小中学生の読書パワーをもっと感じたいと思います。

「読書は一日にしてならず。」読書は継続することによって少しずつ着実に知識や経験を得て、感情を豊かにしていきます。子どもたちの健やかな成長のため、読書の普及啓発について、今後とも努力していききたいと思えます。

終わりに、この作品集を発行するにあたり、審査や編集に際して多大なご尽力をいただきました学校の先生方に対しまして、心からお礼申し上げます。

平成二十九年十二月

日南市教育長 黒木康英

＊ ＊ ＊ も く じ ＊ ＊ ＊

読書感想文の部

【小学校（二年生）の部】

| | | |
|--------------|--------------------|----|
| 金賞 | アラン、かっこいいぞ | 7 |
| | 吾田東小学校 後藤 大智 | 7 |
| 銀賞 | ばあばは、だいじょうぶ | 8 |
| | 飫肥小学校 佐原 莓果 | 8 |
| 銅賞 | ばあばは、だいじょうぶをよんで | 10 |
| | 南郷小学校 宮川 大海 | 10 |
| 【小学校（二年生）の部】 | | |
| 金賞 | つばさくん、だいじょうぶだよ | 11 |
| | 飫肥小学校 水永 瑛人 | 11 |
| 銀賞 | 「やくそくってどんなやくそくかな。」 | 13 |
| | 吾田小学校 後藤 彩綾 | 13 |
| 銅賞 | しあわせのなみだ | 14 |
| | 桜ヶ丘小学校 笠 煌大朗 | 14 |

【小学校（三年生）の部】

| | | |
|--------------|-------------------------------|----|
| 金賞 | 「お昼の放送の時間です」を読んで | 15 |
| | 飫肥小学校 川越 葵生 | 15 |
| 銀賞 | いのちをすくった外交かん | 17 |
| | 吾田小学校 井上 暖仁 | 17 |
| 銅賞 | 「青い空がなくなった」を読んで | 19 |
| | 榎原小学校 星野 楓花 | 19 |
| 【小学校（四年生）の部】 | | |
| 金賞 | つらい人の立場になって | 21 |
| | 吾田小学校 阿部 凜里亜 | 21 |
| 銀賞 | 命をつなぐひまわり | 23 |
| | 吾田小学校 島中 瞬空 | 23 |
| 銅賞 | 「耳の聞こえないシェアーリガー ウィリアム ホイ」を読んで | 25 |
| | 吾田小学校 萩本 萌珈 | 25 |

【小学校（五年生）の部】

金賞 「海をわたった折りづる」を読んで
吾田東小学校 山村 玲未 …… 27

銀賞 いじめはいけない
飢肥小学校 三賢 李華 …… 29

銅賞 まいと私がおそわったこと
吾田小学校 井上 心暖 …… 30

【小学校（六年生）の部】

金賞 「ゲンの行動に感動」
吾田小学校 河野 結愛 …… 32

銀賞 ハートボイスとの出会い
鵜戸小中学校 山根 麻椰 …… 34

銅賞 「該当なし」

【中学校の部】

金賞 不幸な動物たちを救いたい
日南学園中学校一年 糸井 波子 …… 36

銀賞 「世界から僕が消えたなら」
南郷中学校一年 松田 七音 …… 40

銅賞 「該当なし」

読書感想文入選作品名一覧 …… 43



読書感想画の部

【小学校（一年生）の部】

| | | |
|--------------|--------------------|----|
| 金賞 | お月さまってどんなあじ？ | |
| 鵜戸小中学校 | 中原 咲和 | 45 |
| 銀賞 | ナルニア国ものがたり ライオンと魔女 | |
| 吾田東小学校 | 佐藤 奏多 | 45 |
| 銅賞 | ミリーのすてきなぼうし | |
| 潟上小学校 | 阿部 陽琉 | 45 |
| 【小学校（二年生）の部】 | | |
| 金賞 | おぼけでんしゃ | |
| 鵜戸小中学校 | 長友 竜星 | 46 |
| 銀賞 | 魔法のいる花屋さん | |
| 吾田小学校 | 後藤 彩綾 | 46 |
| 銅賞 | いえのなかのかみさま | |
| 吾田小学校 | 隈部 唯花 | 46 |

【小学校（三年生）の部】

| | | |
|--------------|----------------|----|
| 金賞 | お父さんのVサイン | |
| 飢肥小学校 | 藤山 結奈 | 47 |
| 銀賞 | 手ぶくろを買いに | |
| 鵜戸小中学校 | 村中 恵太 | 47 |
| 銅賞 | ねこまつりのしょうたいじょう | |
| 飢肥小学校 | 須志田 琳音 | 47 |
| 【小学校（四年生）の部】 | | |
| 金賞 | 3年2組は牛を飼います | |
| 飢肥小学校 | 松山 ひかる | 48 |
| 銀賞 | 銀河鉄道の夜 | |
| 南郷小学校 | 藤原 萌愛 | 48 |
| 銅賞 | 子ネコききいっぱつ | |
| 潟上小学校 | 佐藤 凜梨 | 48 |

讀書感想文入賞作品

小学校一年生の部

【講評】

一年生に合う本を選び、自分の生活や経験を結びつけ、自分の言葉で表現してある作品が多かったです。さらに、読書することの喜びや楽しみを表現できるといいですね。

金賞

アラン、かついで

吾田東小学校

後藤 大智

ぼくのはが、このまえはじめてぬけました。そのうしろから、おとなのはが、によきによきはえてきています。おかあさんに、「はがだいちといっしょだね。」といわれたので、ぼくは「アランの歯は、でっかいぞ、こわーい

ぞ」をよみました。アランのはは、ぴかぴかどがつています。ぼくは、「アラン、なんだかかつこいいな。」とおもいました。

アランは、こわーいわニです。ぴかぴかのはでみんなをこわがらせています。そのために、一ぼんのはを十ぶんみがいて、こわいかおのれんしゅうをしています。ぼくは、こんなにはみがきがんばってつかれないかな、とおもいました。ぼくだったらむりです。はは、まいにちささっとみがいています。

だけど、ほんとうは、アランのははいればです。口がフニャフニャのアランをみて、ぼくは、おもしろくてわらってしまいました。

あるひ、ビーバーのバリーが、アランがねているあいだにいればをかくしました。はがないので、アランはみんなにわらわれてないてしまいました。こわがらせたア

ランがわるいけど、あんなにはみがきをがんばっていたので、ちょっとかわいそうになりました。

さいごに、アランはいればをかえしてもらい、みんなのためにいろいろしてあげるやさしいワニになりました。

アランがともだちとたのしそうで、ぼくもうれしくなりました。

アランは、こわがらせたり、いればだったり、あまりかっこよくありませんでした。でも、なんでもがんばるアラン、みんなにやさしくなったアランを、ぼくはさいしょより、ずっとずっとすきになりました。アランはやっぱりかっこいいな、とおもいます。ぼくも、アランのかっこいいところをまねしたいです。だから、おともだちにやさしくしようとおもいます。はみがきも、もうちよっとていねいに、ながくみがこうとおもいます。

銀賞

ばあばは、だいじょうぶ

飢肥小学校 佐原 莓果

わたしには、ばあばが二人います。一人はいつしよにすんでいて、もう一人は、とおくに、すんでいます。そのばあばとは、つばさくんのようにいつもはなせませんが、たまにでんわではなすときは、ながくなってしまいます。たまにあうと、やさしくしてくれます。つばさくんのばあばは、わすれてしまうびょうきでした。わすれてしまうびょうきとは、どんなびょうきなんだろうとおもいました。そのびょうきとは、おなじことをなんかいもきいてきたり、いままでできたことが、できなくなってしまうびょうきとりました。ばあばが、いれてく

れたおちやがもし、かれはだつたら、

「おちやのはじゃなくて、かれはだよ。」

と、いつてへやからにげださず、わたしがいれてあげます。いつもとちがうばあばがしんぱいだったら、しゅくだいをもってばあばのへやにいきます。わたしは、ばあばがいなくなったら、しんぱいで、よるもねむれません。げんきにかえってきたら、いつぱいしゃべって、あそびたいです。

「これからは、なるべくいっしょにいこうね。」と、います。わたしのばあばは、わされるびょうきではありませんが、もしなうってしまったら、おちやのはは、とどかなのなか。よなかには、そとにいかないように。まごは、やさしいこ。まごのすきなものは、マーボードウフ。わすれてはいけないだいじなことは、わたしがメモをかいで、へやにはってあげます。わたしはどこかで、おとし

よりにはなしかけられたとき、たのしくかいわしていたけど、これからは、じぶんからはなしかけたいとおもいます。

銅賞

ばあばは、だいじょうぶきよんで

南郷小学校 宮川 大海

「ぼくは、なんさい。」「おなまえは。」

となんどもきかれたことがあります。そのときぼくは、へんだなどおもいました。

それは、ママがばあばきゆうにつれていってくれたときです。となりのしらないおばあちゃんにきかれて、なんども

「みやがわたいが、6さいです。」
といました。

ぼくは、ばあばきゆうにくくるまのなかで、たのしみでわくわくしていました。

でも、なんどもきいてくるおばあちゃんにへんじをするのがいやになりました。

「なんどへんじしても、いっしょ。またきいてくるから」とおもって、そのおばあちゃんからにげたくなりました。

このほんのつばさくんも、おなじきもちだったのかなとおもいました。

ぼくは、がつこうからかえると、おばあちゃんのいえにかえります。おばあちゃんのいえには、ひいおばあちゃんもすんでいます。

ぼくは、ひいおばあちゃんがだいすきです。

もし、ひいおばあちゃんがわすれてしまうびょうきになったら、ばあばきゆうのときみたいに、へんだなあとおもうかもしれない。でもぼくは、ひいおばあちゃんがわすれものをとどけてくれたり、おやつをくれたり、や

さしくしてくれたことを、わすれないよ。いつもありがとう。

ひいおばあちゃん、だいじょうぶだよ。わすれてしま
うびょうきになっても、ぼくがまもってあげるね。

小学校二年生の部

【講評】

読書を通して、こうなりたい自分を明確に書いている作
文が多く、二年生らしさを感じました。さらに物語だけで
なく、ジャンルを増やし、広い視野で読書を楽しめるとよ
いですね。

金賞

つばさくん、だいじょうぶだよ

鉄肥小学校 水永 瑛人

つばさくん、大すきなおばあちゃんが、にんちしよう
になつてびっくりしたね。おかしとまちがえて、どんぐ
りをたべようとしたり、おちばをお茶と言って、のませ

ようとしたりして、かなしかつたでしょう。ぼくも、じぶんのおばあちゃんが、記おくがなくなって、いろんなことがわからなくなったら、さびしい気もちになると思います。

でもね、つばさくんのおばあちゃんは、つばさくんがいるから、だいじょうぶだとぼくは思います。家がわからなくなると、一ばん中、さむい外にいたおばあちゃん
の足に、つばさくんが、くつしたをはかせてあげたとき、ぼくはそう思いました。そして、おばあちゃんは、前のように、つばさくんのあたまをなげながら、

「だいじょうぶ。だいじょうぶ。」

と言いましたね。おばあちゃんは、びよう気になっても、どんなことがあっても、はげましてくるんですね。ぼくが、一ばん、すきな場めんです。まるで、ぼくが、はげまされているような気もちになるからです。

もし、ぼくのおばあちゃんが、にんちしようになつたら、つばさくんのように、できないことを手つだつてあげたり、わすれたことがあつたら、それを教えてあげた
いす。そして、ぼくには、大人になったら、どんなびよう気もおせるくすりのかいはつをするというゆめがあります。そのくすりの中に、にんちしようが、なおせるくすりも入っています。やすいねだんで、こうれいしやの方も買いやすいくふうをしたいと思います。

みんなが、じぶんのできることで、がんばれば、だいじょうぶだと、ぼくは思っています。つばさくん、これからは、おばあちゃんをたすけてあげてください。ぼくは、べんきようをして、いいくすりを作るから、まっ
いてね。

銀賞

「やくそくくってどんなやくそくかな。」

吾田小学校 後藤 彩綾

この本を読む前は、犬のミュウとぼくとの楽しいゆかいなお話だと思っていたわたしは、はじめて本を読みながらなみだが出ました。ポロポロ丸いなみだをながしながら何かいも読みました。むねがじいんとして、でもなぜか心がひきしまった気もしたのです。

この本は、ぼくの大せつな家ぞくでまるでおねえちゃんのようなそんざいのミュウとぼくとのきずなについて書かれた本です。

わたしが一ばん心にのこったのは、「犬も人もみんな、いつかはかならずしぬ。だから、生きているあいだは、

一日一日をせいっぱい、その日、その人にできることをいっしょうけんめいして生きていく。それでいいんだよ。」というお父さんのことばです。いっしょうけんめい生きるなんて、わたしはあまり考えていなかったのもったいなかったし少しだけくやしいです。

この前、道とくのじかんにいのちについて考えました。わたしは、じゅみょうということばをはじめてしました。人や生きものにはみんなじゅみょうがあるけど、そのいのちのほのおがきえるまであかるく生きつづけないといけないと思いました。

天国に行ったミュウとぼくがむすんだやくそく、それはやさしくてつよい人げんになるということでした。

「ミュウ、わたしもっぱいしてもあきらめないつよい心をもつよ。そして、人のことも考えられるやさしい人になりたい。がんばるよ。」

銅賞

しあわせのなみだ

桜ヶ丘小学校 笠 煌大朗

「こんなに小さいのに、かぞくとはなればなれなんて。」
と考えたら、かなしくてなみだが出てきました。ぼくよりも小さなトロンが一人で生きていくなんて。お話でないたのは、はじめてでした。

さいごのばめんでも、なみだが出てきました。それまでたかっていたティラノサウルスもアンキロサウルスもほかのきょうりゆうたちもみんな力であわせて、ようがんをくいとめようとしました。ティラノサウルスの力だけではたりないと思っていたけど、みんなの力をあわせたら、たすかることができました。よかったなと思

っていたら、トロンのお母さんがあらわれました。しんだと思っていたお母さんが生きていたのです。びっくりして、うれしくてなみだが出てきました。しあわせのなみだが出ました。

このお話でわかったことが二つあります。

一つ目は、かぞくは大じということです。ぼくは、かぞくとけんかをしたり、おこったりした時、ないて一人のへやに行きます。でも少したつと、さびしくなってきたみんなのところへもどります。トロンのお母さんが、「これからは、ずっといっしょよ。あなたをずっとあいしてる。」

と言ったように、かぞくはやっぱいっしょがいいです。

二つ目は、みんなちがうからみんなすてきということ。きょうりゆうたちは、みんなじぶんにはかいないところをもっています。だからみんなすてきです。ぼくも、

ぼくのいいところやみんなのいいところを大せつにしたいです。

トロンのお父さんがずっと言っていたように、ぼくも力ではなく、心のつよい人になります。心がつよい人は、やさしくて、みんなもじぶんも大せつにできると思いますが。

小学校三年生の部

【講評】

出会った本を通して、感じたことや気づいたこと等を素直に文章で表現しています。また、自分の経験を通して考えをまとめたり、今後の自分の成長を見つめ直したりすることができました。

金賞

「お昼の放送の時間です」を読んで

飢肥小学校 川越 葵生

私は、「お昼の放送の時間です」という本を読みました。この本を読んでみようと思ったのは、本の表紙を見たときに、面白そうな本だと感じたからです。また、本

の題名を見て、学校のお昼の放送はどのようにやっているかを知りたくなりました。

本の内容は、四年生になったかえでさんが、なりたかった放送委員に選ばれたところから始まります。お昼休みに音楽を流したり、本の朗読したり、時にはクイズなど、楽しい番組を作っています。期待にむねをふくらませて委員になったかえでさんといっしょに番組を担当することになったのが、こうへいくんです。せの高いかえでさんと正反対の、ちびで、おしゃべりで、おつちよこちよいのこうへいくん。おまけに担当の曜日を金曜日に勝手にきめてしまうほどのジコチュウ。せつかくかえでさんが計画した星うらないの番組をまぜつかえしたかと思うと、おかしなクイズを出してかえでさんをあきれさせます。ところが、放送を聞く子どもたちには、二人のかけ合いが好評で、先生からはまるで「夫婦漫才」の

ようだと感心される始末。かえでさんはいよいよ落ち込みます。そんな二人の楽しいお話です。

一番心に残った場面は、かえでさんとこうへいくんが仲良くなったところです。仲良くなった理由は、かえでさんがこうへいくんの家に行つた時のこと。かえでさんがこうへいくんと調理員さんが話していたことをほめました。よく話を聞くと、その調理員さんは、なんとこうへいくんの本当のお母さんだったのです。こうへいくんのお父さんとお母さんはりこんしていて、こうへいくんはお母さんと別々にくらしていました。お母さんは弟を病院につれていくために毎週水曜日には調理員の仕事をお休みしています。だから水曜日だとこうへいくんの放送を聞くことができません。だから、こうへいくんは自分の放送を聞いてもらうために、どうしても金曜日の当番になりたかったのです。

私は、さいしよ、二人がずっと仲が悪いままだったら
どうしようと思っていました。でも、二人がおたがいの
気持ちを分かり合うことができて良かったと思いました。
私だったらあまり仲良くなれないかもしれないと思いま
すが、せつきよくてきに話したり遊んだりして気持ちが
分かるようになりたいです。

私はこの話を読んで、なりたかった図書委員の仕事を
もっとやりたくなつたし、放送委員の仕事もやってみた
くなりました。もちろん、お昼の放送です。そしてこれ
からも本との出会いを大切にして、読んだことのある本
も何回もくり返し読んでいきたいです。そして、新しい
発見やあらためて分かったことを大切にし、これからも
いっぱい本を読んだり、何回も読みかえしたりしていき
たいです。

銀賞

いのちをすくった外交かん

吾田小学校 井上 暖仁

ぼくはすぎ原ちうねさんを新聞を読んで知りました。
むかしせんそうがあつたときに、リトアニアという国で
大ぜいの人のいのちをすくつたと書いてありました。
すぎ原さんがどういう人で、どうやって外国の人をす
くつたのかを知りたくてこの本を読みました。

本の題名は「すぎ原ちうねといのちのビザ」です。ビ
ザとは入国きよかしようといつて、ビザがないと外国に
行ったときにその国に入ることができないそうです。

すぎ原さんの仕事は外交かんです。外交かんとは外国
に住んでその国と日本がなかよくできるようにしたり、

話し合いをしたり、その国に住んでいる日本人がこまっていたときにたすけたりするのが仕事で、ビザを出すのも外交かんの仕事です。

ある日、すぎ原さんのところにポーランドという国からたくさんのユダヤ人がやってきて、日本に行くためのビザを出してほしいとたのみました。その理由は、せんそうが始まっていてドイツという国がポーランドにせめてきたからです。ドイツのへいたいはユダヤ人の人たちをつかまえてころしたりしたそうです。ぼくはユダヤ人がかわいそうで、どうなるか心配いでした。

でも、すぎ原さんは、

「せいふにそむくことになるかもしれないが、なにもしなければわたしはかみにそむくことになる。これからこの人たちをたすける。」

と言って、ビザを出すことを決めました。

ぼくは自分がすぎ原さんだったらどうするのかを考えてみました。ぼくだったらビザを出していないと思いません。なぜなら、ユダヤ人の人たちはかわいそうだけど、日本せいふの命れいにはさからえないし、自分たちもどうなるのか分からないからです。

それから一か月間、朝早くから夜おそくまで、休むことなくビザを書きつけました。

ぼくがすごいと思ったことは、つかれてビザを書きたくないと言ったすぎ原さんに、おくさんが、

「まだたくさんの人がまっています。もう少しがんばってビザを出しましょう。そしてできるだけおおぜいの人をたすけてあげましょう。」

と言ったことです。すぎ原さんの仕事を家ぞくみんなでおうえんして、たくさんの人の命をすくったことにとても感動しました。

この本を読んで、少しだけせんそうのを知ることができました。今でもせかいのいろんなところでせんそうがおこっています。

みんながすぎ原さんのように命を大切にすゝる気持ちを
持てば、あらそいがなくなると思っています。

そして、二度とせんそうがおこらない平和なせかいに
なつてほしいです。

銅賞

「青い空がつながつた」を読んで

榎原小学校 星野 楓花

このお話は、東日本大しんさいの二カ月後に、宮城県
から広島にひっこしてきた、麻美^{まみ}ちゃんの物語です。麻
美ちゃんが犬をひろつたり、犬のかいぬしに会つたり、
親友の亜衣^{あい}ちゃんが遊びに来てくれたりしました。

さいしよに、麻美ちゃんが犬をひろつたところが印象
にのこりました。その犬の名前はチョコです。なぜ印象
にのこつたかと言うと、チョコがおびえていたのをたす
けてあげていてやさしいなど、思つたからです。そのと
き、チョコはうれしかつたんだと思います。

わたしが一番心にのこつたことは、親友の亜衣ちゃん

が帰るときにチョコをもらってくれたことです。なぜ心にのこったかというと、じつは、麻美ちゃんのマンションでは、動物をかつたらだめなんです。でも、大家さんに見つからないようにこっそりかかっていました。だから、見つかる前にかわりにかつてくれる人をさがしていたんです。そして、やつともらつてくれる人がいました。それが亜衣ちゃんです。そのとき麻美ちゃんは、チョコとわかれるのは少しさびしいけどもらつてくれてよかったと思つたんだと思います。

わたしは気づいたことがあります。それは、犬と人間のちがいです。「人間から食べ物をもらつてもそれいじようはいらない。家だつて、寝るところさえあれば文句は言わない。だけど、人間の中には食べ物や大きな家があつても、もつとたくさんほしいと、よくばる人もいる。大人たちの中にはそのためにあらそいをはじめる者もい

る」ということを知りました。

「青い空がつながった」を書かれた毛利まさみちは、青い空はつながっている、だから、世界の人々もつながっている、ということをつたえたいのかもしれない。

わたしは、この物語を読んでじしんやせんそうがおきたときにたくさんの方がくるしんでいることがわかりました。あと、犬やねこなどのかいぬしはきちんとさいごまでかわなければいけないことがわかりました。

『青い空がつながった』を読む前は、なんでひょうしに犬がいるのかなと思つていました。でも読んで見ると、とてもおもしろかったです。もう、じしんもせんそうもミサイルもげんしばくだんもつなみもこんなものぜんぶなければいいのと思いません。これから、世界中のみんながなかよくしてほしいです。わたしは、これから人の

気持ちを考えて、思いやりのある人になって、いろいろなことをしていきたいです。世界はつながっています。人々もつながっています。わたしは、心もつながっていると 생각합니다。

小学校四年生の部

【講評】

ノンフィクションの話から自分の行動や考えを見つめ直したり深めたりしたことをまとめることができました。わからない点はたずねたり調べたりしていることもよいと思います。

金賞

つらい人の立場になって

吾田小学校 阿部 凜里亜

この本には、わたしの日常では聞きなれない言葉がたくさん出てきました。ミャンマーはどこにあるのか、アジアにはどんな国があるのか、難民とは何かなど、お母

さんと調べることから始めました。

アジアは世界で最も大きな州で、世界の人口の約六十パーセントの人が住んでいると言われていたそうです。その中で国はちがっていても、アジアの人はかみの毛の色や外見がにているという特ちょうがあることが分かりました。さらに、難民とは、災害や戦争などが起きた場所から、国外にのがれた人々のことだと知りました。

小学校四年生のあいりの家のとなりには、ミャンマーから五大家族が引っこしてきました。その中に、あいりと同じ年のナーミンという女の子がいました。ナーミンはあいりと同じクラスになりました。ナーミンは日本語が分からないし、はしも使えないという文化や生活のちがいをたくさん持っていました。言葉も分からないナーミンは、日本に来て、とても不安でこわかっただろうと思います。ナーミンのような立場になることは、私にとっ

ては想像することもできないくらいのことだと思いました。

そんなナーミンに意地悪する男の子もいました。むりなことを注文したり難民キャンプの子は一食しか食べないとからかったりしました。それを許すことができなかったあいりは、男の子に立ち向かい、ナーミンをかばいました。私は、（私も、あいりのように、ナーミンのような子がいたら守ってあげられるだろうか。）と考えました。

こんな強い気持ちを持ったあいりのやさしきで、ナーミンとのきよりもちぢまり、二人は友だちになりました。クラスの男の子もからかうことがなくなりました。そして、みんなでミャンマーの文化を知り、ダンスをおどって、心が一つになっていきました。私は、よかつたな、すごいなと思いました。

国や文化、言葉がちがっていても、おたがいに思いやりの心があれば、友だちになることができるんだなと思いました。私も、これから困っている人がいたら、やさしく手をさしのべられる人になりたい、それができる強い人になりたいと思いました。

日本でも、地しんや津波で家や家族を失い、引っ越ししたり仮設住宅に住んだりしている人がいるというニュースを見ます。そういう人たちがどういう気持ちでいるのか、私はしっかりと考えなければならぬと思います。そして、おたがいに困っている人を助けたい、力になりたいという気持ちで、がんばれる力になるんだと思いました。

私も、この気持ちを忘れず、周りにいる人たちに心配を持ち、家族や友だちとしっかりと生きていきたいと思いました。

銀賞

命をつなぐひまわり

吾田小学校 島中 瞬空

地しんは、いつ起きるか分かりません。今、地しんが起きて、住んでいる所がどうなるのか、私や家族がどうなるのか、考えても想像が付きません。地しんが来た時にどうしたらいいのか、どこにひなんすればいいのかを家族で、しっかりと話し合っておかなければなりません。当然のことだけど、この本を読んで、私はもう一回確かめることができました。

阪神淡路大震災では、六千四百人をこえる人たちがなくなつたそうです。起きた時間は午前五時四十六分ごろで、ほとんどの人が、まだねむっている時間でした。大

きくゆれた地しんと暗さで、大きなパニックになったようです。

ある家族は、この地しんで大きな悲しみを受けました。

お母さんとねむっていたはるかちゃんは、こわれた家の下じきになってなくなっていました。いつもは、お母さんがねむる場所にはるかちゃんがいたので、生き残ったお母さんは、場所を変わったことをくやみ、心の病気になってしまいました。お父さんも、悲しさを忘れようとお酒にたよりすぎ、入院しました。そして、二人を支えて元気づけようとしていたお姉ちゃんのいつかさんも、がんばりすぎて病院に行くようになりました。

私は、読んでいてつらくなりましたが、まだまだ地しんの本当のおそろしさは分からないし、かわいそうだということしか考えられません。だから、私はどんなことをしていけばいいのかを考えました。

そんな時、私のおじいちゃんの話聞くことができました。おじいちゃんは、トラックの運転手をしていて、阪神淡路大震災が起きた後、その場所を見たそうです。おじいちゃんが話してくれただけで、私はこわくなってしまうました。

建物や家が多くつぶれていて、まるで戦争が終わった後の町の様子だったそうです。その中で町の人々は、へとにつかれきっていたそうです。それでも、自分たちの家族のために生活を取りもどそうと、一生けん命がんばっていたそうです。

はるかちゃんがなくなった後の空き地に、ひまわりがさきました。そのひまわりの種ができ、多くの人の手によって伝わっていきました。みんな、この悲しみやつらさを忘れず、それでも明るく生きていこうという気持ちになったんだなと思いました。はるかちゃんのひまわり

が、たくさんの人を元気にして、勇気づけていったのだ
と思いました。みんなの命をつないでいったのだと思
いました。

私も、このひまわりを咲かせてみたいと思いました。

この種ではないかもしれないけれど、わたしも咲いて
ひまわりを見たら、この本のことを思い出し、命の大
切さを思い出していきたいと思います。

銅賞

「耳の聞こえないメジャーリーガー」

ウィリアム ホイ」を読んで

吾田小学校 萩本 萌珈

この本は耳の聞こえないウィリアムが野球選手になり、
今でも野球の試合で使われている、しんぼんのジェスチ
ャーやピッチャーのサイン、選手のサインプレーなどを
考えたという本です。

この本を読んで、心に残ったことが二つあります。一
つ目は、ウィリアムがろう学校に行き、学校代表の野球
選手になるために、がんばって練習をしていたのに背が
小さすぎると言われ野球選手に選ばれませんでした。そ
れでも、がんばって毎日野球の練習をしていたことです。

耳が聞こえなくてもあきらめずに自分の夢を追いかけているウィリアムのように、あきらめずに何事もがんばっていきたいと思いました。

二つ目は、ピッチャーや観客に笑われても泣きたいのをこらえて、バッターボックスを後にし、書くということを思いつきジェスチャーなどを考えたことです。

ウィリアムはとても強いなと思いました。また、耳が聞こえないことに対して嫌だと思うことがなく、周りの人にも怒らずジェスチャーなどを考えて野球が行いやすいように工夫していたのでえらいなと思いました。

私のお母さんは障害者のいる病院で働いています。お母さんにどんな人がいるのか聞いてみました。目の不自由な人、言葉が話せない人いろんな人がいることを話してくれました。みんな、自分の出来ない所を自分なりに工夫して生活していると言っていました。お母さんの話

を聞いておどろきました。

もし、近くにウィリアムみたいな人がいて、その人が困っていたらその人の助けになりたいと感じました。

これからは、何事もあきらめずにがんばって取り組んでいこうと強く感じました。自転車に乗れないので自転車に乗る練習、これからある運動会のかけっこの練習などウィリアムみたいにあきらめずにがんばっていきたいと思います。また、障害を持った人にやさしく接し、助けることができ、こまっっている人がいれば優しく接し、助けられることは進んで助けていききたいと思います。

小学校五年生の部

【講評】

身近にある問題や、命の大切さなどをテーマに、自分の考えを述べることが出来ている感想文であった。読書を通して自分を見つめなおすことができていると、自分を成長させるきっかけとなる読書ができていると感じた。

金賞

「海をわたった折りづる」を読んで

吾田東小学校 山村 玲未

この本を手にした時、題名から私の好きな旅行をしたつるなのだろうとワクワクドキドキ、きょう味しんしんになりました。しかし、読み進めて行くと、むねのおく

がジーンと熱くなるものでした。

原子ばくだんによる血液のガンになったサダコちゃんが、「つるを千羽折ると願い事がかなう」と信じて、折った小さな赤い折りづる。死にたくない、生きていたいという思いで折ったものが、兄さんにだかれて海をわたった話でした。

副作用で苦しい思いをしているサダコちゃんは、決してなみだを見せることも、弱音をほくこともなかったのです。それどころか、

「母ちゃん、サダコも死んだら星になるんやからね。」と、なみだをうかべている、お母ちゃんをなぐさめるサダコちゃんは、とてもやさしい、思いやりにあふれたすてきな女の子でした。

だからこそ、お兄さんもサダコちゃんの、「ひばくの苦しみとニューヨーク同時多発テロの苦しみは同じ、二

度とこのような苦しみが起きることのないようにして、ほしい」と伝えるためにアメリカに折りづるを持ってわたったのです。

サダコちゃんのやさしい、思いやりの心が周りにも伝わっていて、同級生みんなが、入院でさびしい思いをしないように、元気づける方法を考えたり、亡くなった次の日には、子どもたちが、日本中では金活動を始めたりして人をはげまし、勇気づける輪が広がっています。

この本を読んで学んだことは、命は、本当に大事なんだということです。ひとつしかない、かけがえのないものなのだということです。

きつと、この本を書かれた、

「石倉きん二^じ」さんが、一番伝えたかったこと、「戦争の大きな悲げきを思っ^てなみだを流す人もいます。東洋の人も、西洋の人も、思いは同じです。言葉のかべはあ

りません。みんな、いのちの大切さを知っているのですから。」命に国境はない、言葉のかべもない、全世界の人の命は、平等に守られるべきなのだということだと思えます。

最後に、これからは、自分の命はもちろんみんなの命も大切にしていきたいと思います。

そのために、サダコちゃんの思いやりの心、感しやの心をむねに、もつと楽しく元気に生きていきたいと思います。

そして、人をはげまし、勇気づけられる人になります。

銀賞

いじめはいけない

飢肥小学校 三賢 李華

私は、いじめという本を読みました。読もうと思ったきっかけは、学校でいじめがあったからです。

この本は、高校受験を合格できるようにがんばる生活の中でライバル関係の間に生まれた「いじめ」の物語です。主人公の亜月あつきは、成績優秀な中学三年生です。亜月は、父のようなすばらしい医者になるためにじゅくに通っています。最初は、いじめられていためいと仲良くしていたけど、あることをきっかけに自分もいじめに巻きわってしまいました。また、じゅくでカンニングをしてしまつて自分もいじめられました。

私が、この本を読んで一番心に残ったことは、最後に亜月が、「本当に大切なものに点数なんていらぬい。」と気付いたところだ。めいが、交通事故にあつたことをきっかけに、亜月あつきは、内申点ないしんてんよりも友だちの方が大切だと気付きました。

私でも五年生の始まりにいじめがありました。この本と同じで一人の子を数人でいじめをしていました。そのいじめられていた子は、男の子で、いじめられても笑つて何でもないようにしていました。私は、勇気を出して注意できなくて、とてもかわいそうだったのである日、先生に友だちといつしよに相談しました。その後、いじめられていた子は、学校を休んでしまいました。その子も、自分だつたらつらいし、学校に行きたくないと思ひます。

先生達が話し合つて、いじめがどれだけしてはいけぬ

いのか話をしてくださいました。その後、いじめが解決して学校に来れました。私は、いじめがなくなったと思うとよかったと思いました。

この本を読んで、私は、もしこんなことがあったら半月のように人の目を気にせずに、声をかけてあげることが大切だと思います。いじめている人にも注意して、いじめをしている人にも、いじめをうけている側の気持ちになってあげるべきだと分かりました。また、自分から積極的にそのいじめを解決することも大事なことのひとつだと思いました。

これから、大人になってもこのことは、生活に生かせるようにがんばりたいです。そして、ふだんの学校生活から意識していききたいと思いました。みんなで仲良く、楽しく、いじめのない学校にしていきたいと思います。

銅賞

まいと私がおそわったこと

吾田小学校 井上 心暖

みなさんは、魔女はいると思いますか。この本には魔女が出てきます。

私がこの本を読もうと思った理由は、「西の魔女が死んだ」という題名を不思議に思ったからです。西の魔女は何だろうとか、魔女が出てくる怖い話なのかなと思っていました。

魔女の正体は、主人公のまいのイギリス人のおばあちゃんでした。

このお話は、いじめにあつて学校に行けなくなってしまったまいが、いなかのおばあちゃんと過ごした一ヶ月

間のお話です。まいは、おばあちゃんとの生活でいろんなことを学びます。いろんな植物の名前を教えてもらったり、野いちごをつんでジャムを作ったり、にわとりが産んだばかりの卵を取りに行ったりします。私もおばあちゃんの家にいるのを想像してみました。朝早く起きて、朝のきれいな空気をすいながら散歩をして、花や植物に水やりをします。そして、庭に生えているハーブをつんでお茶を作ったり、畑に行って野菜をとりに行ったりします。ふつう、野菜はスーパーで買うのがほとんどです。おばあちゃんのように、畑からとれた野菜をそのまま食べれることはぜひ沢な事だなと思いました。私も植物が好きで庭でスイカを育てています。もうすぐ花がさくので楽しみです。

まいは、おばあちゃんから魔女になるための方法を教えてもらいます。まず、早ね早起きをして、規則正しい

生活をするように言われています。これをきいてそんなかん単なことでもいいのかと思いました。でも、大事なのは自分で決めてやりとげる力だとおばあちゃんが言ったときそのとおりだと思いました。

私も宿題を早く終わらせようと決めたけど、いつも後回しにしてしまいます。毎日の小さな事をしつかりやって、やりとげる力をのばしたいです。他にも、おばあちゃんの言葉で心に残ったことがあります。それは、おばあちゃんのにわとりが何かに殺された時に近所に住むゲンジさんの犬が犯人だと思っていたまいが、ゲンジさんのことを悪く言ったときにおばあちゃんが言った言葉です。「直観は大事だけど、取りつかれてはいけない。激しい思いこみになって、その人を支配するから。」

と言ったことです。

私も初めて会ったクラスメイトで苦手だなと思いこん

でいた人がいました。でも、話をしてみるとすごくやさしくてすぐ友達になりました。これからは思いこみをなくして、ちゃんと人と話をしたいと思いました。

私は今まで「人が死んだらどうなるか」ということを考えたことがありませんでした。まいに質問されたおばあちゃんは「人には魂があつて人が死んでも魂は長い旅を続ける。」と言いました。

私は今まで「死」ということに怖いイメージしかありませんでした。でも、おばあちゃんが亡くなったあと、「オバアチャンノタマシイダツシユツダイセイコウ」と書いてあつたときにおばあちゃんの魂がまいを見守ってくれていると思つてあたたかい気持ちになりました。

私はこれからいろんなかべにぶつかると思います。その時には、おばあちゃんが教えてくれたことを思い出してのりこえていきたいと思えます。

小学校六年生の部

【講評】

六年生らしく、本の主人公の生き方と自分の将来の夢をつなげて書いている作品が多かったです。これからも自分の生き方や成長の参考になる本をたくさん読んで、自分自身を磨いてほしいと思います。

金賞

「ゲンの行動に感動」

吾田小学校 河野 結愛

私は、はだしのゲンを読んで勇気をもらいました。

この本の主人公ゲンは、原爆が投下された広島で育ちます。ゲンは、父親や姉、弟を原子爆弾によって亡くし

てしまいますが、自分も悲しい気持ちやくやしい気持ちがあるのに、他に家族を亡くした方に陽気な歌をうたってはげまして、多くの人に勇気と希望、自信をあたえることのできる少年です。

私はこの本で一番心に残っている場面は、ゲンが少しの罪をかぶってでも人を助けようとするところです。近所のガラス売りのおじさんの商売が上手くいかず、困っていたところを石をいろいろな人のまどにわざと投げてそのガラス屋さんをもうからせてあげるといふ、少しやんちゃなところもありますが、とても優しい心を持っている男の子です。一人でも多くの人の力になりたいと思うゲンの思いが伝わってくる心がホッとあたたまるお話です。

私も実際に転んで泣いている子に声をかけて元気づきようと思ったけれど、勇気が出ず、思っただけで行動で

きなかつた事があります。今この本を読んで、なぜ声をかけられなかったのだろうとこうかいしています。ゲンは私より幼かったのに何百人何千人を救ったというのに情けない。ですが、この本を読んだからには困っている人に声をかけよう。困っている人には生きててこうかいしたと思わせないように、人を一人でも救えるような人になりたい。私の目標になりました。

この本を読んで、私のはつきりしていなかった将来の夢が決まりました。看護師です。なるべく、患者さんには声をかけその方一人一人が笑顔で過ごせるように。生きていくという嬉しき、幸せを感じてもらえるような看護師になります。そのためにも、常に友達や身の回りの人を助けたいと思います。

もう一つ、この本を読んで学んだ事は、ゲンの素晴らしい行動に読者も元気づけられ、人の夢への希望となる

ことが分かりました。

みんながこの「はだしのゲン」を読んで、自分の希望や目標について考え直し、戦争での大変さを知ってもらいたいです。私がゲンに会えるとしたら、

「ゲン、人を救えるというのは素晴らしい事だね、本当にたくさんの人を救ってくれてありがとう。」と言いたいなあと思いました。

銀賞

ハートボイスとの出会い

鵜戸小中学校 山根 麻椰

ーハートボイス：

私はこの本と出会って、人生が大きく変わったといっても過言ではない。私が初めてこの本を読んだのは五年生の時だ。私は、この本を読んだ後に、自分の幼さ、浅はかさに恥ずかしさを覚えたことが忘れられない。それ程、私にとって「ハートボイス」は大切な本になったのだ。「ハートボイス」とは、一年生の時不登校になってしまった主人公の純生が、たくさんの人との出会いをもとに、心豊かに成長していく物語だ。

(ハートボイスって心の声という意味か。)

私はこの本を見た時、そう考え、一体どんな内容の話なのかと気になった。表紙を開けてみると、自分に共感できる部分がたくさんあった。その一つとして、岡崎が受験で苦しんだ時が上げられる。私は、今進路について悩んでいる。それは、中学を受験するかしないか、ということだ。私は今、ソフトテニスを頑張っている。そして、中学を受験してしまえば、今まで一緒に成長してきた仲間と共に戦うことが無くなってしまふ。しかし、中学を受験しなければ、レベルの高い勉強をすることは出来ない。そんな中、大人に意見を求めてみても、「どうせ受験するんでしょ」と決めつける人がほとんどだ。勉強を強要してくる人さえいる。そんな状況の中、私が思っていることと、岡崎が叫んだ、

「ぼくはぼくの意見を表明する権利があり、お父さんたちには、その意見を重視しなければいけない義務があ

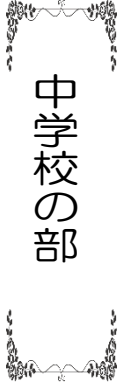
ります。」

という言葉と重なって見えた。私もこの本を読むまで、「子供の権利条約」という言葉を聞いたことさえなかった。それは、第四十二条に記されている、第四十二条の、「国は、この条約の内容を、おとなにも子どもにも広く知らせなければなりません。」

という条約があまり守られていないということでは無いだろうか。私はもつとこの条約を広めるために、授業で必ず取りあつかうようにするなどの対策を練る必要があると思う。

また、私は純生や、そのクラスメイトなどの生き方にも感動した。純生達は、よく考え、とても他人を思いやっている。私は、そんなに深く考えた上で行動していないし、自分のことしか考えていない。それに、人間として正しいかどうかも考えていない。

私は、この本との出会いを通して、自分の小ささや、未熟さを思い知った。私には、「ハートボイス」の登場人物のように、自分で深く考え、他人を思いやる力はない。私は、人間として正しく、美しい大人になるために、純生のように自分でよく考えた上で、正しい行動をとるように心がけていきたい。



中学校の部

【講評】

金賞、銀賞ともに命に向き合い、生きることについて考えることができていました。

どの作品も本を読んで身近なことについて思いをはせることができていました。

金賞

不幸な動物たちを救いたい

日南学園中学校 一年 糸井 波子

私は、動物が大好きです。いつも買う文房具は、動物の絵が付いているものを買います。こんな私が、『いのちの花』を読もうと思ったきっかけは、手に取った時、

犬と猫と書かれていて、動物に関する本だったからです。

動物好きだったこの本の著者でもある愛実さんが、農業高校の三年生の時に動物愛護センターで、人間の身勝手な理由によって、殺処分されていく不幸な動物を救いたいという思いから始まった「いのちの花プロジェクト」という捨てられた犬と猫の骨を土に混ぜて、花を育てようと考えた本当のお話です。

私は、この本を読んでみて、大きく気持ちを動かされたことがあります。

一つ目は、犬や猫が飼い主の身勝手な理由で捨てられて、一年間で十萬頭以上もの犬や猫が殺処分されているということ。殺されると分かって生きている動物の気持ちを、私たちが理解してあげられなかったため殺処分が今まで続けられてきたのだと私は思います。私も愛実さんと同じで、理解してあげられなかったことに、「く

やしい！」と思ってしまうました。

二つ目は、殺処分された動物の骨は、なんと「ゴミ」として扱われるということです。私は、このことを初めて知りました。そして、この骨もある程度たまって、ゴミ収集車が引き取りに来るまで、何か月も放置されます。大きな紙袋に、無造作に入れられ、何か月も放置され、家庭で出されるゴミと同じように、ゴミ収集車で運ばれるなんて、不公平すぎて胸がつぶれるような思いになりました。

三つ目は、動物たちは言葉を話せず、不安な気持ちを伝えられないまま、いきなり命を絶つということがあったのかということです。私は、今まで普通に生きていました。普通に生きてきて幸せでした。しかし、動物たちの小さな幸せに気づいてあげられませんでした。殺されることを理解しながら生きていた命を、いきなり絶

つ時の気持ちを想像しただけで、私は、とても悲しくなります。

四つ目は、生きたくても生きられず、動物の気持ちを考えてもみない人間に命を奪われ、自分の気持ちも分かってもらえない犬や猫がいるということです。とてもつらい思いでいっぱいのはずなのに、私たち人間は、普通に生きてきたことに、とても恥ずかしくなり、情けなく思いました。

いよいよ「いのちの花プロジェクト」の活動がスタートし、まずは、動物の骨を砕いて、細かくする作業でしたが、高校生にとっては、一番つらい作業でした。殺処分された動物をさらに傷つけるようで、それはとてもつらい作業でした。責任、そして命の重みが背中に重くのしかかり、愛実さんは、繰り返し心の中で謝ったそうです。

私は、もし、この作業をしなくてはならないとしたら、涙を流しながら、「ごめんね。ごめんね。」と声に出して言いながら行うと思います。「なんで、もつと早く目を向けてあげられなかったんだろう?」「なんで平気な顔で今まで生きてこられたんだろう?」「家族である犬や猫を捨てた人と、同じ人間であることが恥ずかしい。」という思いは作業中、みんな同じだったんじゃないかなあと思います。そして、時折見かかる首輪、リードの金属片、鑑札、小さな鈴、きれいに形が残った歯や焼け残った臓器などが、動物たちが生きていたことをひしひしと感じさせ、痛む心に塩を塗り込むような気がしたそうです。

私も、以前まで猫を飼っていましたが、動物の気持ちを考えてあげたことはありませんでした。そして、亡くなった時に、骨を見ましたが、とても小さかったです。

これを砕くとなったら、想像してみると、高校生の気持ちがよく分かります。

種まきも終わり、一か月後には、立派にマリーゴールドやサルビアが咲いて、大成功でした。もしこの花を私が見たら、この花を他の人にも、こんな花があるんだよということ伝えてあげたいです。

「知ってください、この現状を。知ってください、生きてくても生きられない命があることを。大切にしてください、動物の命を。」

「いのちの花プロジェクト」を作り上げた高校生方が私たちに訴えようとしていることを私は、真剣に受けとめてみようとする本を読んで思うようになり、今までの私は、ひどい人間であったことに気付きました。

これからは、動物も人間と同じように平等に、動物の気持ちも考えて、かわいがってあげたいと思います。そ

して、私は、将来もし動物を飼うとしたら、愛護センターなどにいる動物を飼って、一匹でも殺処分される頭数を減らしてあげたいです。私は、これからの動物たちの幸せを願いたいと思います。

銀賞

「世界から僕が消えたなら」

南郷中学校 一年 松田 七音

もし、私が、アロハシャツを着た悪魔に、「実は：明日あなたは死にます。」

なんて言われたら私はどんな行動をとるのだろう。私は、『世界から僕が消えたなら。』を読んで、少し考えさせられた。

ある日、脳腫瘍で余命宣告された青年。絶望し、お先まつ暗になって、そのまま玄関で倒れる。数時間後に目を覚ますと、自分と同じ顔のアロハシャツを着た悪魔が青年の前に表れた。愛猫、キャベツも「みゃあ」と鳴く。

その後、一日命を延ばすのと引き換えに、この世界か

ら一つ何かを消すことを持ちかけられる。一日目に電話、二日目に映画、三日目に時計と、次々に世界から消されていく。そして四日目、悪魔は青年に告げた。

「世界から猫を消しましょう。」と。

しかし、長年つれそつた猫を消すことに悩み今は亡き母の言葉を思い出す青年。その母の言葉とは、「何かを得るためには、何かを失わなければならない。」だった。

その言葉をもう一度考え、人間はいつか死ぬという答えにたどりついた。青年は、父親に初めて最後の手紙を書き始めた。母のこと、キャベツのこと、言いたかったこと、自分のこと。長い長い遺書になりそうな手紙を書きはじめた。

青年は、なぜ電話も映画も、時計まで消したのか？ 電話では、まちがい電話から出会った彼女。映画では共に映画が好きということから出会い親友になったタツヤ。

時計では時計店を営んでいた父親の仕事。一つを消すと、同時に大切な人との関係や、大切な人の仕事まで消されてゆくのだ。それが私だったら、たえられないと思う。いや、これも、実際には「死」を目前にしたことのない私が想像しただけの事かもしれない。

自分や大切な人が死ぬとなれば、多分、初めて死という言葉の意味やその重みを知ることになる。そして、急に不安になり、使いなれていたはずの「死」という言葉がとても怖くなる。それが人間なのだと私は思う。それはきつと青年も同じなのかもしれない。だから悪魔と（とても軽い）契約をし、命を延ばしてしまったのだろうか。私は考えた。

この物語では、最終的に、主人公の青年は猫と自分の命で自分の命をとらずに猫をとった。この行動に青年は後悔など、していないのか？ 確かに人間はいつか死ぬ。

主人公の青年も、この世界からすべてが消された日には何もない世界と共に死ぬだろう。それに、四年以上も一緒に二人（一人と一匹）ぐらしをしてきた愛猫を消すのは、かなり心が苦しい。しかし、自分は明日、死ぬことになっているのだ。青年は、悪魔から猫を消そうと言われた時に、どうすればいいかわからない位、ひどく動揺していた。その姿を見た悪魔は、「猫とあなたの命ですよ。」と、にやにやしながら言った。私は（流石は悪魔だ）と思った。

いかにも悪魔らしいセリフであるが、私は心の中で（確かにそうだね）と、思わずつぶやいた。さらに、その後の青年は、「猫の代わりに自分の命を諦めるなんて、バカな男だと思われるかもしれない。でも僕は誰かから何かをうばって、生きのびることが幸せだとは思えなかった。」と心の中で語っていた。

これが人間として、あるべき心の美しさだと私は思った。物語の最後に、「雲が晴れ、春の兆^{きざし}を感じさせる温かい陽光^{ようつこう}が僕をつつみこむ。」と、青年の心理をうつすような風景描写があった。この風景描写から私は、みじかすぎる命でも自分の運命だと受けいれることにした、青年の心の変化を感じ取った。これらのことから、青年は自分の命と猫の命で猫の命をとったことに悔いはないということがわかった。

この小説を読んで私は、すべての人の胸に響く物語なのではないかと思った。「何かを得るためには、何かを失わなければならない。」そんな苦いてつ学的なことが書いてあった。これはすべての人にあてはまることだ。ところでみなさんは、大切な何かに感謝を伝えることができるだろうか？ 大切なものは失ってから分かるなんて言う人もいる。でも、それではだめなのだ。失っ

てからでは、もうおそいのだ。以上のことがこの物語を読んで分かったことだ。私はこのことをしっかりと胸に刻んで生きていきたい。

読書感想文入選作品名一覧 ❖ ❖ ❖

【小学校（一年生）の部】

入選 「アランのははでつかいぞこわーいぞ」を読んで
吾田小学校 岩下 颯真
入選 「おかしのまち」をよんで
鵜戸小中学校 松浦 叶采

【小学校（二年生）の部】

入選 がんばれ、ぴよんた
吾田小学校 隈部 唯花
入選 『にじいろのさかな うみのそのぼうれん』を読んで
吾田小学校 矢野 圭亮

【小学校（三年生）の部】

入選 ぼくに「ゆう気」を教えてくださいました本
吾田小学校 岩田 龍之介
入選 干したからこの本を読んで
吾田小学校 田中 碧彩

【小学校（四年生）の部】

入選 四年二組とマー君からまなんだこと
吾田小学校 原田 蒼大

【小学校（四年生）の部】

入選 てのひら島はどこにあるを読んで
南郷小学校 岸本 神奈

【小学校（五年生）の部】

入選 私のしよう来とつながった本
南郷小学校 渡辺 美羽
入選 「牛をつないだ樁の木」を読んで
油津小学校 平塚 智大

【小学校（六年生）の部】

入選 ベートーベンを読んで
吾田東小学校 田中 龍音
入選 気持ちの大切さ
油津小学校 田島 杏歌

【中学校の部】

入選 「いつか眠りにつく日」を読んで
飫肥中学校二年 加藤 暖
入選 コンビニ人間を読んで
飫肥中学校三年 川口 未遊

讀書感想画入賞作品

一年生の部

金賞「お月さまってどんなあじ？」

鶴戸小中学校

中原 咲和



銀賞「ナルニア国ものがたり
ライオンと魔女」

吾田東小学校 佐藤 奏多



銅賞「ミリーのすてきなぼうし」

潟上小学校 阿部 陽琉





鶺鴒小中学校

長友 竜星

金賞【おばけでんしゃ】

二年生の部



銅賞【いえのなかのかみさま】

吾田小学校 隈部 唯花



銀賞【魔女のいる花屋さん】

吾田小学校 後藤 彩綾

三年生の部

金賞【お父さんのVサイン】

飢肥小学校 藤山 結奈



銅賞【ねこまつりのしょうたいじょう】

飢肥小学校 須志田 琳音

銀賞【手ぶくろを買いに】

鶴戸小中学校 村中 恵太

四年生の部

金賞【3年2組は牛を飼います】

飢肥小学校 松山 ひかる



銀賞【銀河鉄道の夜】

南郷小学校 藤原 萌愛



銅賞【子ネ「ききいっぽつ」】

潟上小学校 佐藤 凜梨



五年生の部

金賞【モチモチの木】

鶺鴒小中学校 外山 滉大



銅賞【アパトサウルス】

吾田小学校 隈部 拓斗

銀賞【夏の猫】

吾田東小学校 後藤 美羽

六年生の部

金賞【注文の多い料理店】

鶴戸小中学校

高嶺

槇那



銅賞【秘密のスイーツ】

南郷小学校 竹内 梓



銀賞【こども電車】

吾田東小学校 阿部 陽花

読書感想画入選作品名一覧 ❖ ❖ ❖ ❖

【小学校(一年生)の部】

入選 ミリーのすてきなぼうし
 瀧上小学校 井野田 葉瑠
入選 アランの歯はでっかいぞこわーいぞ
 榎原小学校 堤内 遼珂

【小学校(二年生)の部】

入選 めんどりとこむぎつぶ
 油津小学校 川端 真矢
入選 にじ
 瀧上小学校 鈴木 七々

【小学校(三年生)の部】

入選 くろねこのどん
 吾田小学校 福島 遙音
入選 ぶたのモモコはバレリーナ
 吾田小学校 渡邊 夢結

【小学校(四年生)の部】

入選 ヒックとドラゴン
 南郷小学校 水元 瞭
入選 空飛ぶのらネコ探検隊 アフリカゾウ大ピンチ
 鵜戸小中学校 大迫 美友

【小学校(五年生)の部】

入選 さくら子のたんじょう日
 東郷小中学校 重倉 あい
入選 火の鳥
 鵜戸小中学校 根木 ひなた

【小学校(六年生)の部】

入選 海
 細田小学校 片山 天心
入選 サンタをやめた日
 油津小学校 松田 七海

読書感想画の審査を終えて

読書感想画の審査会場に入ると、たくさん感想画が広げられ、色とりどりの物語の世界に迷い込んだよ
うな、わくわくする気持ちになりました。どの絵も好きな場面が個性豊かに表現されていて、描いた人の思
いが伝わってきました。

低学年の皆さんの絵は、動物や花や人が、元気いっぱい描かれていました。クレヨンや絵の具の使い方
に慣れて、その特徴を生かしながら、上手に描いているなあと感じました。

中学年の皆さんは、人と人、人と生き物、人と周りのものといったように、描きたいものを組み合わせ
て描く構成力が素晴らしいなあと感じました。細かい部分も、よく考えて書き込んだ絵が多かったと思
います。

高学年の皆さんは、デッサンがしっかりしてきて、立体的に描くことができるようになっていました。ま
た、物語のテーマをしつかりと捉えて、絵を見る人に訴えかける力をもつ絵が描けていました。

今回は、各学年ともスパッタリングの技法を使った作品が何点も出ていたのが目につきました。絵の具を
金網を通してブラシで飛び散らせた技法です。美しい仕上がりになっていました。あえて混色せず、その色
の持つ美しさを生かした鮮やかな色合いの絵もありました。しっかりと下絵に淡く色をつけた優しい印象
の絵もありました。色を塗り重ねて、力強く表現をしている絵もありました。

描く人が、それぞれの持ち味を生かして、自由に伸び伸びと表現した素晴らしい絵と出会えて、とても幸
せでした。



市の木
飢肥杉 (オビスギ)



市の鳥
メジロ



市の花
ツワブキの花



市の魚
カツオ